罵詈

の御事ぞありける、

〔平家物語 一〕禿童事

いかなる賢王賢主の御まつりごと、攝政關白の御せいばいにも、世にあまされたるほどの、いたづらものなどの、かたはらにより合て、なにとなふそしりかたぶけ申事は、つねのならひなれども、このぜんもん〇平清盛世ざかりのほどは、いさゝかゆるかせに申ものなし、そのゆへは入道相國のはかりごとに、十四五六のわらべを、三百人すぐつて、かみをかぶろにきりまはし、あかきひたたれをきせて、めしつかはれけるが、京中にみち〳〵て往反しけり、をのづから平家の御事、あしざまに申ものあれば、一人きゝ出さぬほどこそ有けれ、よたうにふれまはし、かの家にらんにうし、しざい、ざうぐをつゐぶくし、そのやつをからめて、六波羅殿へゐてまいる、さればめに見、こゝろにしるといへども、ことばにあらはして申ものなし、六波羅殿のかぶろとだにいへば、道をすぐる馬車も、みなよぎてぞとをしける、禁門を出入すといへども、姓名をたづねらるゝにおよばず、京師の長吏これがためにめをそばむと見えけり、

○

〔類聚名義抄 五言〕詬 呼豆反 ノル　詬 俗　〔同 九罔〕罵罵 今正音馬 ノル サイナム　詈罵 今正力智反 ノル サイナム 音離

〔伊呂波字類抄 能人事〕罵 ノル 罵入也　詈　詢　詢 已上同

〔書言字考節用集 八言辭〕罵詈 ノヽシル 說文、正斥曰罵、旁及曰詈、　喤呷 同文選　匉梨 同

〔倭訓栞 前編二十三 乃〕のる〇中略　罵詈をいふは、乘の義成べし、

〔伊呂波字類抄 能人事〕訇 ノヽシル　喧　嘩　颯　囂 已上同

〔空穗物語 嵯峨院〕すざく院には、みかどやすくもおはしまさず、いでいりおもほしなげきて、をはしまさんとすれば、きさきのはらだちてのゝしり給て、いみじき事をし給て、このぬす人しらな